



宮城

天然繊維ならではの肌触りが
多くのファンを増やす
実用的な伝統的工芸品
「若柳地織」

千葉孝機業場

千葉孝機業場（宮城県栗原市若柳字川北塚ノ越、千葉孝順代表、0228・32・3087）は、「地域のの人たちに高級な絹織物ではなく、木綿で作った普段着を着てほしい」との思いから明治時代末期に創業して以来、現在では、宮城県の伝統的工芸品として指定を受ける「若柳地織」を製造・販売している。

同場では、大正時代にトヨタグループの創業者である豊田佐吉翁が発明した「豊田式鉄製小幅動力織機Y式」を現役で6台稼働させており、このことを知ったトヨタ自動車の豊田章一郎名誉会長が同場に見学を訪れたこともある。また、昭和8年に（株）豊田自動織機製作所が自動車部を作ったことが、現在のトヨタ自動車の起源となっていることもあり、今でも社員研修等で多くのトヨタ関係者が視察を訪れ、その際に「この機械でない」と、この風合いは出ない」と絶賛されるほど、同場の製品技術は折り紙付である。

このように一見すると順調そうに見える同場であるが、東日本大震災では、全壊には至らなかったものの、動力を伝える駆動ベルトが切れたり、工場全体が傾く等の大きな被害を受けた。

震災によって千葉代表自らも精神的に大きな打撃を受けたが、全国各地の「若柳地織」のファンから、心温まるたくさんの応援メッセージをいただいたことが、工場を再開する原動力となり、現在に



現在も稼働している「豊田式鉄製小幅動力織機Y式」



製品の数々

至っている。

天皇陛下が宮城県を訪れた際に購入したコースターをはじめ、同場ではシャツや携帯ケース、名刺ケース、メガネケース等数多くの製品を制作している。

同場の詳しい商品内容については、ホームページにて（<http://locoplace.jp/t000194183/>）